

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		①あらためて「身体拘束等適正化指針」を職員全員で読み直し、日々のケア時の思考(代替方法)や対策の在り方を見直す予定である。	利用者様一人一人が尊厳を保ち、穏やかに暮らしていけるよう職員皆が自身の身を守り働きやすい環境を築き、身体拘束をなくす取組みをすすめ、利用者が自由に行動できる環境を提供していく。	身体拘束禁止の具体的な行為を把握し日常生活の中で、不適切なケアがないように職員間で共有し話し合える環境を作っていく。	12ヶ月
2		②身体拘束等適正化委員会及び虐待防止委員会の報告内容を振り返り、理事長の指示を仰ぐと共に、系列ホームの取組みなども参考にしてい	尊厳ある生活支援のために、高齢者虐待や身体拘束なく、入居者がこころよく住みやすい環境を作る。介護にかかわる職員に対し身体拘束等の適正化の基礎的内容・知識を普及啓発することを目的として研修等の学びの場を開催する。	身体拘束等の適正化のため委員会を3カ月に1回開催し職員の周知徹底を図っていく。法人内での虐待・身体拘束廃止についての研修を定期的に行っていく。	12ヶ月
3		今後も入居者の方々を「ありのままに受け入れる」ため、家族との情報交換を密に行うと共に、家族からの情報を職員間で共有することを徹底していきたいと考えている。	ご本人、ご家族の要望を受け入れアセスメントを作成し事業所内での取組みなど詳細に説明し、十分な理解を得られるよう家族との信頼関係を築き、職員間で共有できる施設になる。	今の現状をもう一度本人・家族の気持ち要望を聞いてアセスメントを行う。職員が家族からの情報を共有し、情報のもれがなく家族に迷惑かけないように周知徹底していく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月